

地域医療におけるチームケア

～社会資源の少ない地域での在宅医療チームのあり方～

愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻

地域看護専門看護師

吉田美由紀

チームケアとは何か

- ▶ 利用者の日常性に根差した必要（ニーズ）に対して過不足なく、効率的かつ効果的にサービスを提供するために編成され機能する、各種ケア提供者の協働による、地域包括ケアの提供形態・方法
- ▶ 機能分担と相互干渉のバランスをとりながら利用者情報を完全に共有する仕組み

チームケアのプロセスの特徴

- ▶ 他職種が多角的に視て、検討して、アイデアを出し合いながら、皆で揉んでいくプロセスこそがチームケア
- ▶ 出来上がったケアプランに基づいて、各自が粛々と決められたサービスを分担し合うだけのものはチームケアとは呼ばない。

利用者の願い

- ▶ 「シームレス（縫い目さえない）の状態」で自らのケアに関する情報が共有されている。
- ▶ ケアをしてくれる人が誰であろうと、常に一枚岩の状態でサポートタイプに機能してくれる。

どうすれば「シームレス化」できるか？

- ▶ 情報のシームレス化は、
現場職員が**共通認識**の上に、
民主的なカンファレンスを実施し、
記録を共有化することで生まれる

カンファレンス重要性

=シームレス化

共通認識

- ▶ 目的は利用者の望む生活の実現

民主的

- ▶ 他職種から学ぶ場である

共有化

- ▶ 自分の専門性をわかりやすく伝え、相互理解を得る場
(過度な期待や過小評価がなくなる)

八幡浜症例検討会の役割

利用者の日常性に根差した必要（ニーズ）を共有し、過不足なく効率的効果的にサービスを提供 → シームレスな協働チーム = 八幡浜チーム

- ▶ 八幡浜に住む終末期がん患者さんに関わる在宅スタッフが
- ▶ 八幡浜の課題を共通認識し、
- ▶ 職種の隔たりなく他職種から学ぶことで互いの専門性を理解し、
- ▶ 利用者情報を共有することで利用者の日常生活のニーズに対応する

チームの種類

- ▶ Multi-disciplinary team care
- ▶ Inter-disciplinary team care
- ▶ Trans-disciplinary team care

Multidisciplinary Team Care

マルチディシプリナリー チームケア

それぞれの専門職が個別に
目標を設定してアプローチ



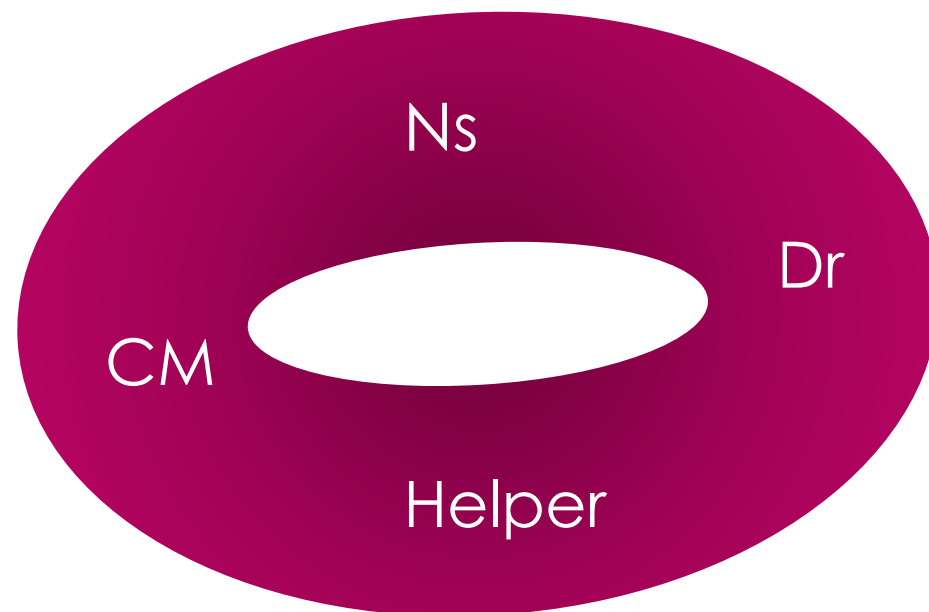
Inter-disciplinary Team Care インターディシプリナリー チームケア

多職種が目標を共有して互いに連携して
役割を補いあうアプローチ



Trans-disciplinary team care トランスディシプリナリー チームケア

チームの中で各メンバーが果たすべき役割を、意図的・計画的に専門分野を超えて横断的に共有した役割解放を行うアプローチ。



トランスディシプリナリーチームケアの特徴

▶ 人材不足（専門職の不足）において有効なチームの形態

意図的に役割開放が行われる。近年、日本でも普及しつつある包括型地域生活支援プログラム(ACT)などで注目されているチーム形態である。

進展 (role extension)

強化 (role enrichment)

拡幅 (role expansion)

開放 (role release)

支援 (role support)

医療過疎地でのチームアプローチ

	強み	弱み
機会	少ない人材だからこそチームのコミュニケーションは取りやすい	少ない人材で、加重業務になりやすい。 不安
脅威	対象になる患者さんの存在	バーンアウトは避けたい。 関係性の固定

解決するには。。

1. カンファレンスを積極的に開いて、会う機会・話す機会・知る。
機会を作ろう！
2. 職種に関係なく、患者・家族の生活上のニーズに、限られた
チームメンバーでどのように対応していくかを話し合おう！

思考の重要性



本当に方法は一つもないのか？

どうすれば少しでも患者・家族の希望を叶えるための支援ができるようになるか
とにかくやれることからやってみる